

ちよつといひ話

～ 自 覚（七草法要）～

佛教では「人間はそれぞれに仏性をもって生まれてくる」と説かれています。それはそれぞれ異なる修行態をもって、この世に生を授けられていると言う事でしょう。これは即ち六道の輪廻転生です。そして我々は輪廻転生しながら最終的に人間界から解脱（六道）して極楽に往生する事があります。「ちよつといひ話」第14,20,24、33号を参照。

さて今日は七草です、御存知のように、当山の御本尊、一光三尊善光寺如来様は現在の新潟県は高田市にある、高田城の殿様（源光長公）の感得された仏像です。皆様も頭にふと浮かんだ人が尋ねてみえた、とか電話が掛かってきた事があるかと思いません。これも一種の感得です。感得とは目に見えない事が事実となって現れる現象と言えましょう。光長公の場合は夢中のお告げの通り、御尊像（現、善入院の御本尊様）が信濃の善光寺本堂の階段に鎮座してみえたと言う事です。この事実は信仰心の厚い光長公の願う一心が佛日に成就した形であると思えます。

我々も社会生活の中で自己の仏性を感得して、自分はこの世で何をして死ねば良いのか自分の佛性を自覚する事が肝要です。栄耀栄華を夢見るばかりに根性まで腐ってしまったり、金に目が眩み他人や

会社の金を使い込み失敗したり等々、欲望渦巻く社会の脱落者に成らないように啓発し自覚を持たなくてはなりません。

儒教者、孔子は「論語」の中に、50にして天命を知る、60にして耳順したがつ、と教示しました。天命を知るとは当に佛性に目覚め己が使命を覚さとる事でしょうし、60になれば自我を捨て後継こうけいの子孫に道を譲るべく精進を重ねる事でしょう。

60歳は還暦です。暦は10干かんと12支しの組み合わせからなり、60歳で産れた年の暦に戻る事から還暦かんれきと言うのです。ですから60歳を越し老いるに従って少しずつ頑固を削り、諸人の話に耳を傾け、「光陰矢のごとし」です。日一日と短くなる死に向かって優秀の美を飾れる様に、信仰の基本である**家族の和合と信頼**を築きあげ、そして見守られながら極楽に往生させて戴き、子々孫々に至るまで家門の繁栄を守れる様に祈念すべきであります。第59、61、62、号参照。決して「**爺は辛勞、子は楽、孫は乞食**」と成らない様に早く自覚しましょう。分分

善入院油掛地藏尊